

平成29年度

市政モニターアンケート調査結果  
【 公共施設マネジメントについて 】



長 崎 市  
資 産 経 営 室

## 1. 調査の目的

近年、人口の減少や厳しい財政状況の中で、公共施設の更新をどのように行うかが大きな課題となっています。そこで長崎市は、将来必要な行政サービスを維持し、暮らしやすいまちであり続けるために、公共施設を時代の変化に対応できるように見直していくという「公共施設マネジメント」の取り組みを進めています。

公共施設マネジメントを推進するにあたっては、市民の皆さまの理解を得ながら進めていくことが大切であり、これまで、広報ながさきに公共施設マネジメント特集号を折り込んだり、ホームページで周知を図ってきました。

今回のアンケートの回答から、認知度にどのような変化があるのか把握・分析し、今後、市民の皆さまにどのように周知していくかの参考とすることを目的としています。

## 2. 調査の概要

調査期間：平成 29 年 7 月 31 日 ～ 平成 29 年 8 月 14 日

送付数：214 人（郵送モニター 173 人 インターネットモニター 41 人）

回答率：65.0%（139 人）

（郵送モニター 127 人 インターネットモニター 12 人）

## 3. 調査結果

長崎市は平成 23 年度から公共施設マネジメントの取り組みを始め、これまで、広報ながさき・特集号チラシの折り込み、シンポジウムの開催、長崎市ホームページなど、さまざまな方法でお伝えしてきました。市民の皆さまへの認知度についても、向上しているものと捉えていましたが、取り組みを「知っている」と答えたかたは全体の 20.1%にとどまり、平成 25 年度の調査結果と比べて低下していることから、認知度を高める努力が必要と考えています。

一方、公共施設を見直していくことについて、資産経営室作成のリーフレットを参照いただいたうえで賛否を尋ねたところ、「賛成である」「どちらかといえば賛成」を選択されたかたの割合は、95.0%で、平成 25 年度の調査結果と同程度の高い数値を示しました。公共施設の見直しは多くの皆さまが必要性を認める課題であるといえます。

今後、市民の皆さまのご理解を得るための努力を重ねながら、公共施設マネジメントの取り組みを進めていきたいと考えています。

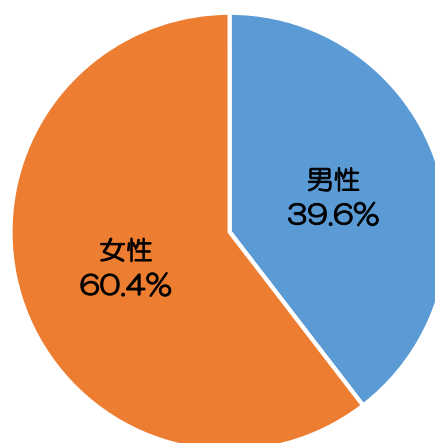
#### 4. 調査結果の見方

調査結果の数字は、百分率で表記しているものがあり、百分率の値は、小数点以下第2位を四捨五入して、小数点第1位まで表記しています。そのため、内訳を合計しても100パーセントに合致しない場合があります。

また、複数回答可とした設問においては、合計が100パーセントを上回る場合があります。

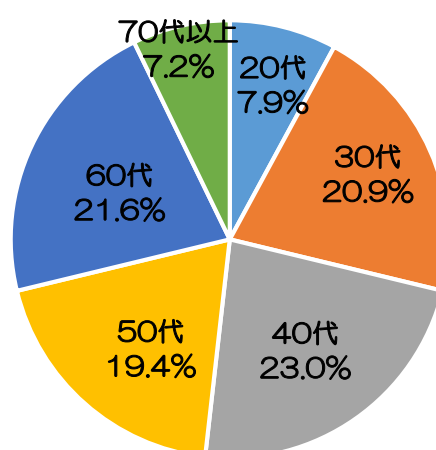
問1 あなたの性別をお答えください。

選択肢	回答者数	割合
男性	55人	39.6%
女性	84人	60.4%
合計	139人	100.0%



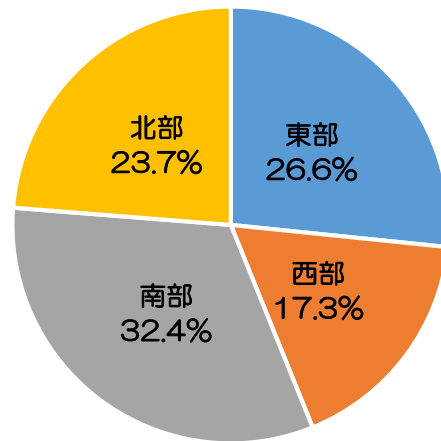
問2 あなたの年齢を選択してください。

選択肢	回答者数	割合
20代	11人	7.9%
30代	29人	20.9%
40代	32人	23.0%
50代	27人	19.4%
60代	30人	21.6%
70代以上	10人	7.2%
合計	139人	100.0%



問3 お住まいの町名を教えてください。

選択肢	回答者数	割合
東部	37人	26.6%
西部	24人	17.3%
南部	45人	32.4%
北部	33人	23.7%
合計	139人	100.0%

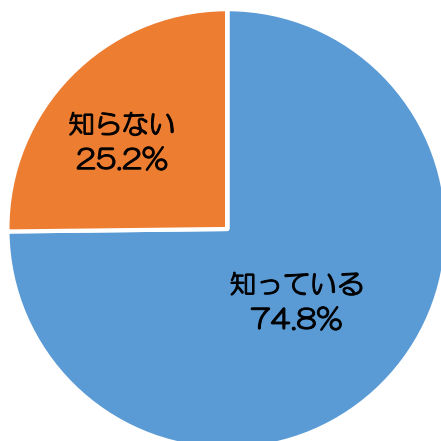


※ご記入いただいた町名をもとに、東西南北に分けて集計しています。

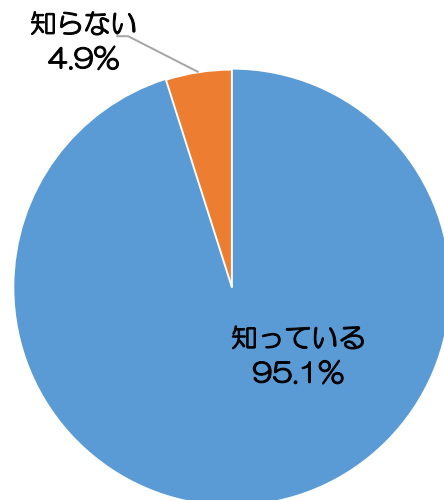
問 16 高度経済成長期に整備された公共施設（国や自治体が設置・運営している施設）やインフラ（道路や橋など）が老朽化し、全国的な社会問題となっていることを知っていますか。

選択肢	平成29年度 調査		<参考>平成25年度調査	
	回答者数	割合	回答者数	割合
知っている	104人	74.8%	135人	95.1%
知らない	35人	25.2%	7人	4.9%
合計	139人	100.0%	142人	100.0%

平成29年度



平成25年度

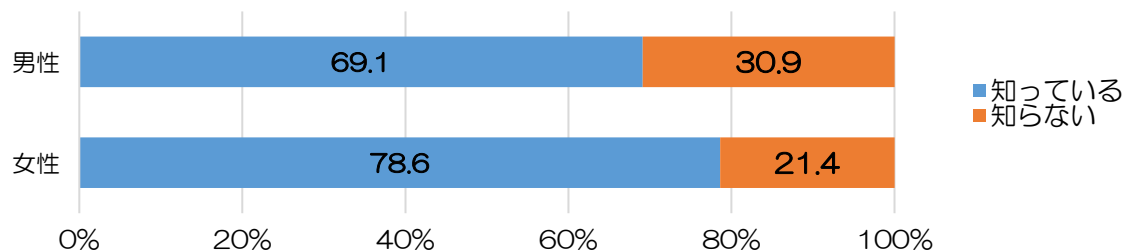


公共施設やインフラが老朽化し、全国的な社会問題となっていることを「知っている」と回答されたかたの割合は74.8%でした。

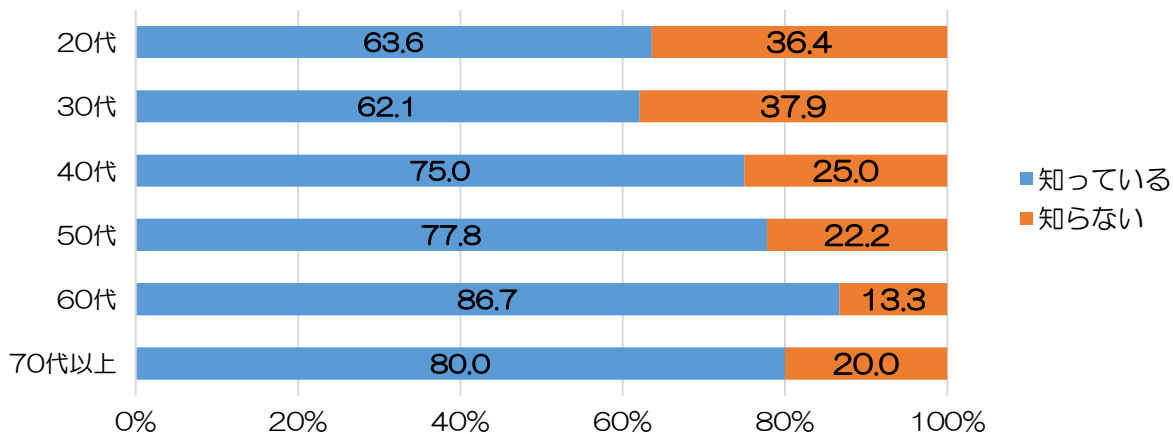
これは、平成25年度の調査と比べると20.3ポイント減少しています。

公共施設やインフラの老朽化の問題について、市民の皆さまにより一層分かりやすく説明し、理解を求めていく必要があるといえます。

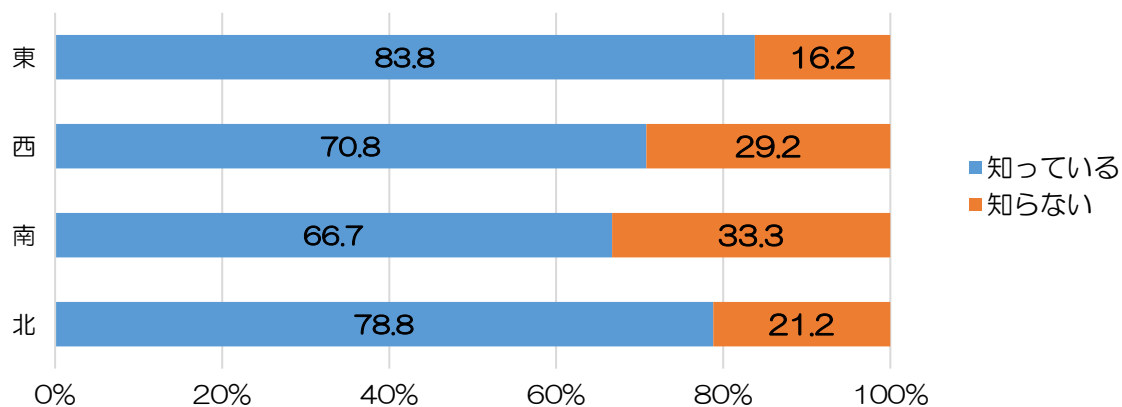
#### 〈性別割合〉



#### 〈年代別割合〉



#### 〈地域別割合〉



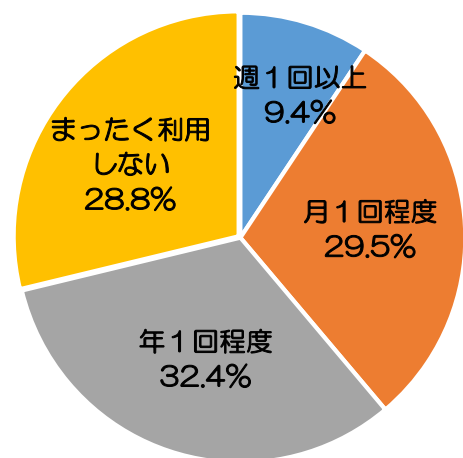
男女別にみると、「知っている」と回答したかたは女性がやや高くなっています。  
 年代別にみると、おおむね年代が高いほど、「知っている」と回答したかたの割合は高い傾向にあります。

地域別にみると、「知っている」と回答したかたは、東部・北部が、西部・南部に比べてやや高くなっています。

問 17 あなたが長崎市の公共施設（※）を利用する頻度をお答えください。

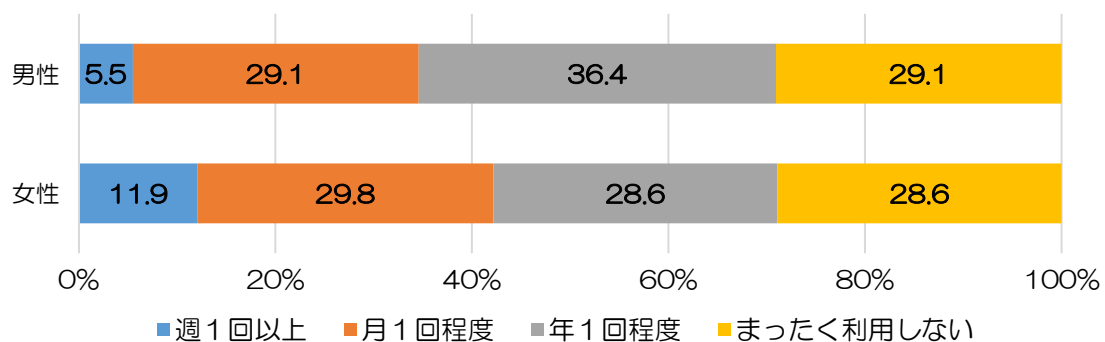
※市立図書館・ふれあいセンター・公民館・市民体育館・老人憩の家・児童センター・本庁舎および支所など

選択肢	回答者数	割合
週1回以上	13人	9.4%
月1回程度	41人	29.5%
年1回程度	45人	32.4%
まったく利用しない	40人	28.8%
合計	139人	100.0%

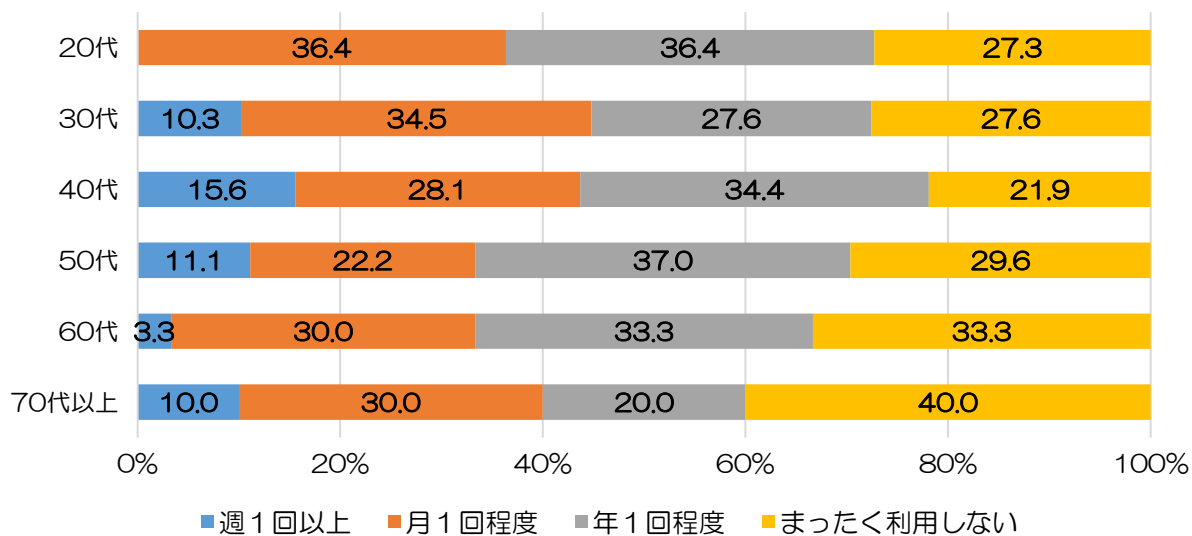


公共施設を利用する頻度について、「週1回以上」と回答されたかたの割合は9.4%と、全体の1割に満たないのに対して、「まったく利用しない」と回答されたかたの割合は28.8%と、全体の3割近い割合でした。

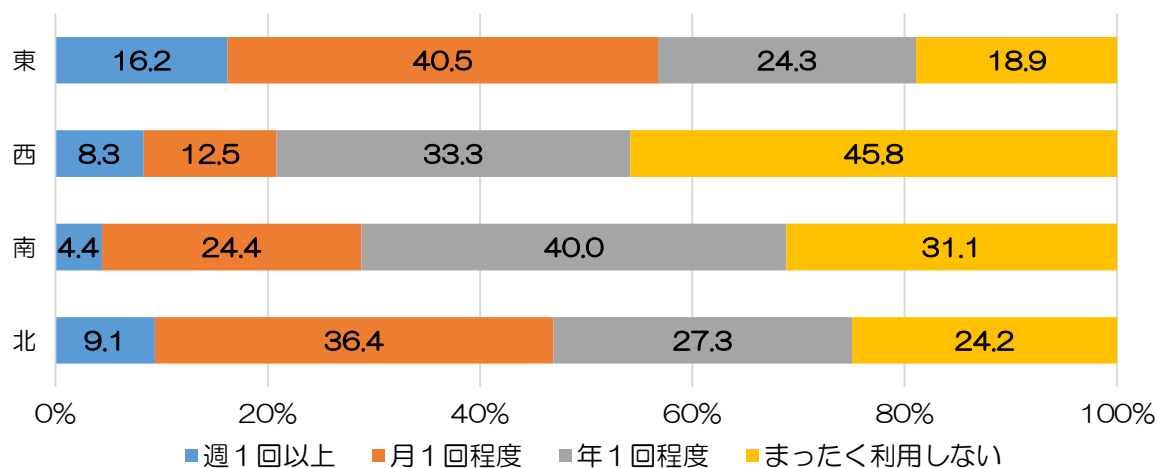
〈性別割合〉



〈年代別割合〉



〈地域別割合〉



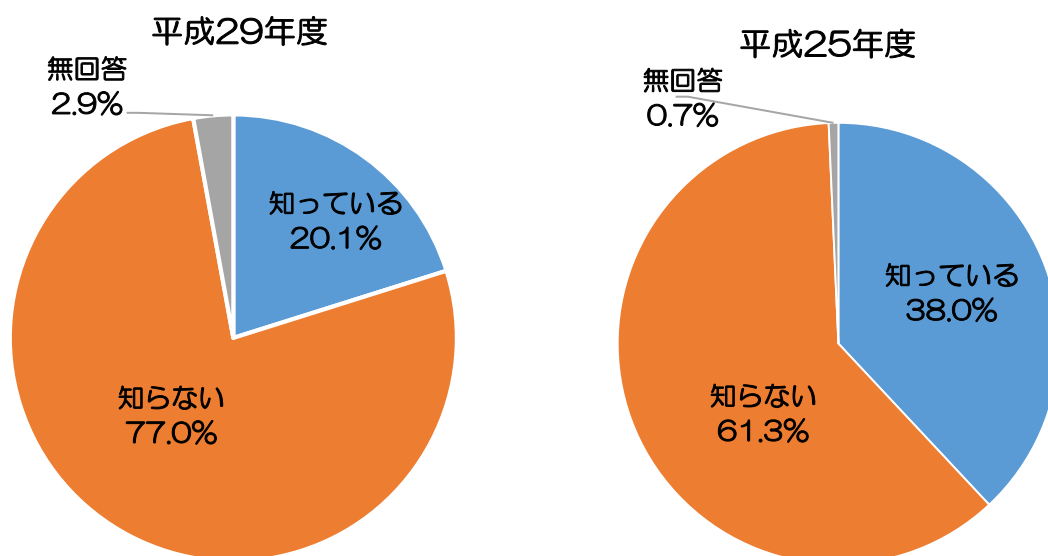
男女別にみると、「週1回以上」と回答されたかたの割合で、男性が5.5%に対し、女性が11.9%と、特に女性の方が高くなっています。

年代別にみると、「週1回以上」と回答されたかたの割合は、20代が0、60代が3.3%と低くなっています。「まったく利用しない」と回答されたかたの割合は、おおむね年代が高いほど高い傾向にあります。

地域別にみると、東部では、「週1回以上」と回答されたかたの割合が他の地域より相対的に高くなっています。「まったく利用しない」と回答されたかたの割合は、西部が45.8%と高く、最も低い東部の2倍以上にのぼりました。

問 18 人口の減少や厳しい財政状況の中で、施設の更新をどのように行うかが大きな課題となっています。暮らしやすいまちであり続けるために、将来必要な行政サービスを維持し、公共施設を時代の変化に対応できるように見直していく「公共施設マネジメント」の取り組みを長崎市が進めていることを知っていますか。

選択肢	平成 29 年度 調査		＜参考＞平成 25 年度調査	
	回答者数	割合	回答者数	割合
知っている	28 人	20.1%	54 人	38.0%
知らない	107 人	77.0%	87 人	61.3%
無回答	4 人	2.9%	1 人	0.7%
合計	139 人	100.0%	142 人	100.0%

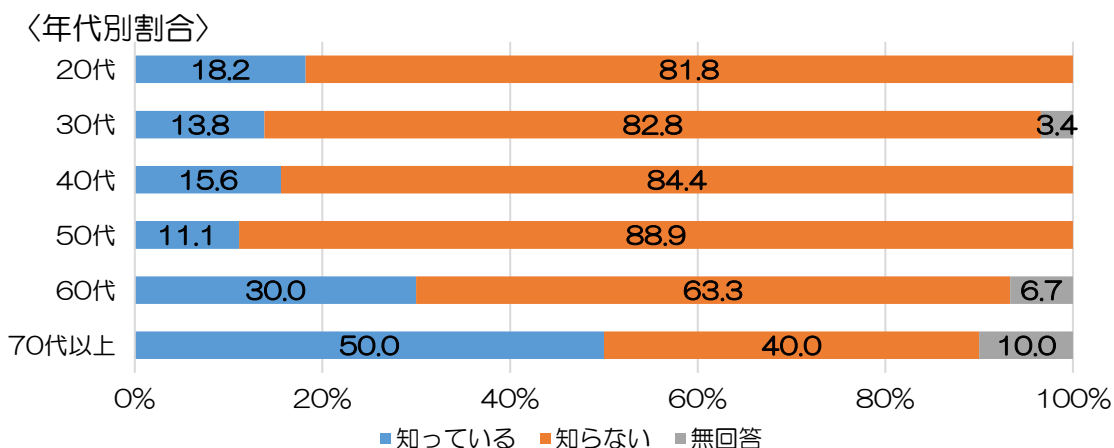
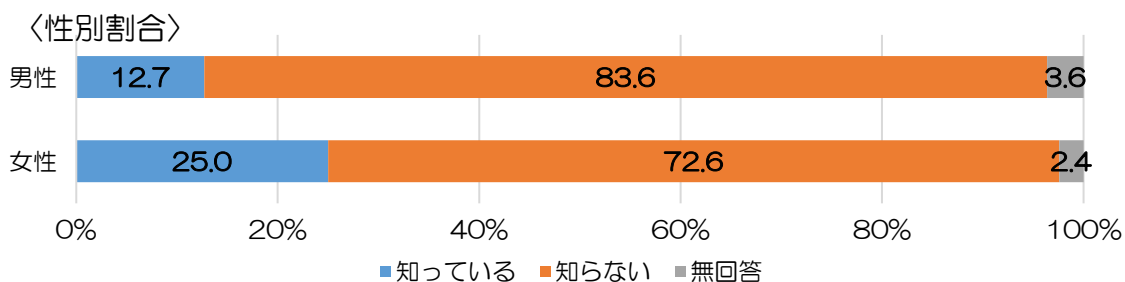


※ 平成 25 年度の調査における、「知っている」の項目は、「長崎市公共施設白書または長崎市公共施設マネジメント基本計画の存在を知っている」「長崎市公共施設白書または長崎市公共施設マネジメント基本計画の存在は知らなかったが、長崎市が公共施設の更新の問題に取り組んでいることは知っている」の2つの回答の件数を合算しています。

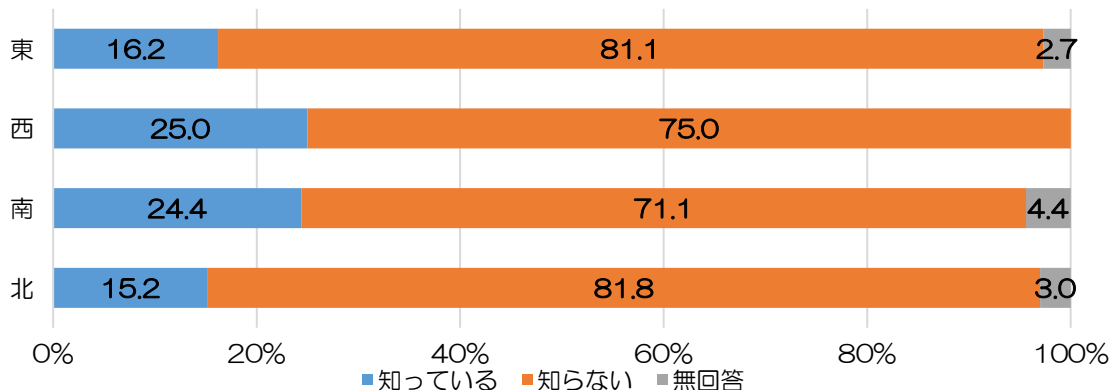
「公共施設マネジメント」の取り組みを長崎市が進めていることを「知っている」と回答したかたの割合は 20.1%で、平成 25 年度の調査と比べると半分近くに減少しています。

今後は、公共施設マネジメントについて市民の皆さまにも一緒に考えていただけるよう、長崎市の取り組みをより分かりやすくお伝えする努力が必要であると考えています。





■ 「長崎市の公共施設マネジメントの取組みの認知」の地域別割合



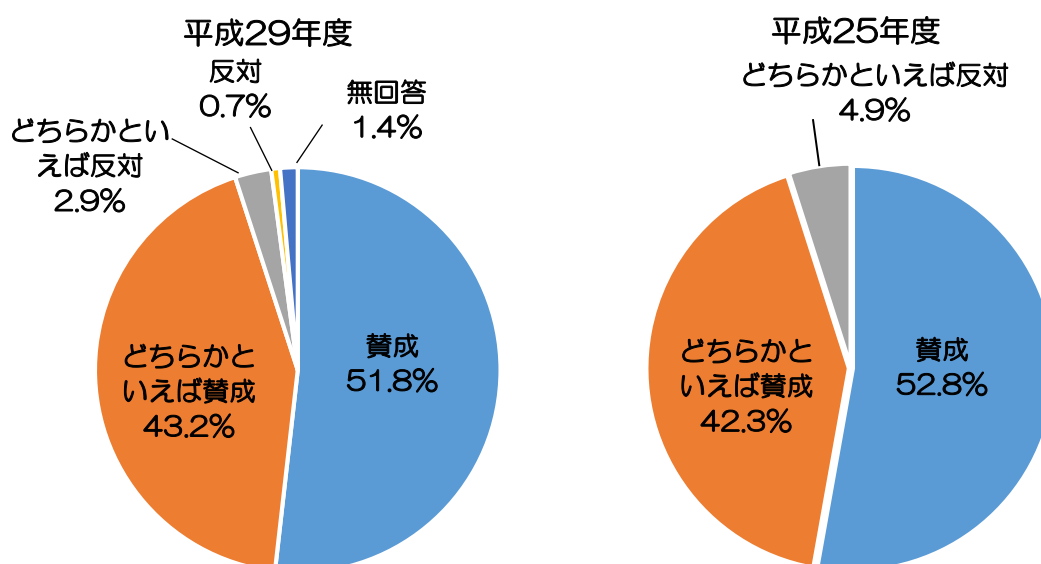
男女別にみると、「知っている」と回答したかたは、男性が 12.7%に対して、女性は 25.0%と高くなっています。

年代別にみると、「知っている」と回答したかたは、20～50代が 20%未満と割合が低くなっているのに対して、60代は 30.0%、70代以上は 50.0%と割合が高くなっています。

地域別にみると、「知っている」と回答したかたは、西部・南部が東部・南部に比べて割合が高くなっています。

問 19 施設の建替えや維持管理には多額の費用がかかるため、長崎市では、施設の統廃合や複合化（施設が多機能化）に取り組み、適正な配置と規模を見直して、必要な公共サービスを維持していく必要があると考えています。この考え方についてどう思われますか。

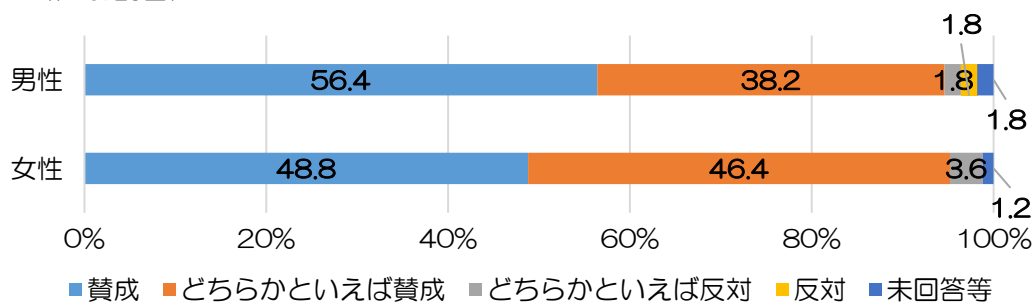
選択肢	平成 29 年度 調査		＜参考＞平成 25 年度調査	
	回答者数	割合	回答者数	割合
賛成	72 人	51.8%	75 人	52.8%
どちらかといえば賛成	60 人	43.2%	60 人	42.3%
どちらかといえば反対	4 人	2.9%	7 人	4.9%
反対	1 人	0.7%	0 人	0.0%
無回答等	2 人	1.4%	0 人	0.0%
合計	139 人	100.0%	142 人	100.0%



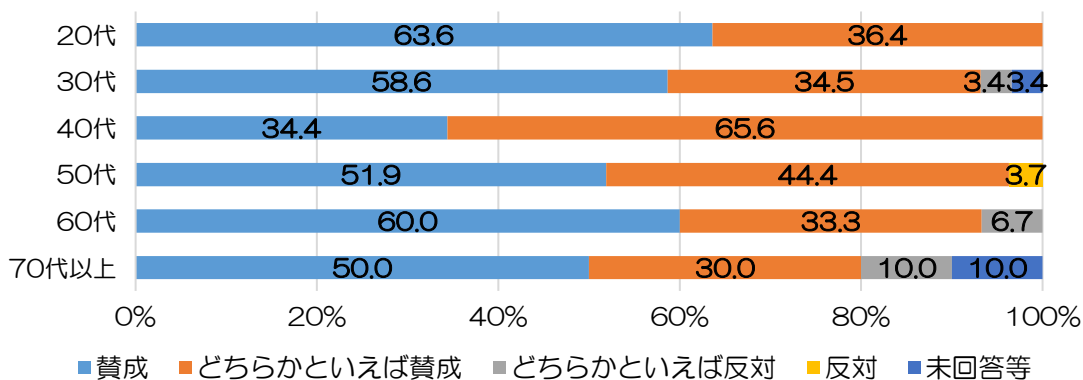
「賛成」「どちらかといえば賛成」と回答されたかたの割合を合わせると95.0%で、平成25年度調査と同程度の高い割合となっています。「どちらかといえば反対」「反対」と回答されたかたの割合は3.6%でした。

全体として、「賛成」「どちらかといえば賛成」と回答されたかたの割合が高いため、公共施設の見直しは多くの皆さんが必要性を認める課題であると考えられます。

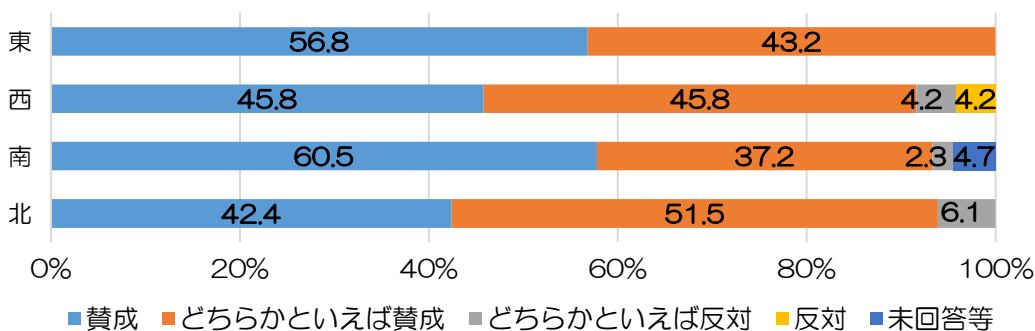
〈性別割合〉



〈年代別割合〉



〈地域別割合〉



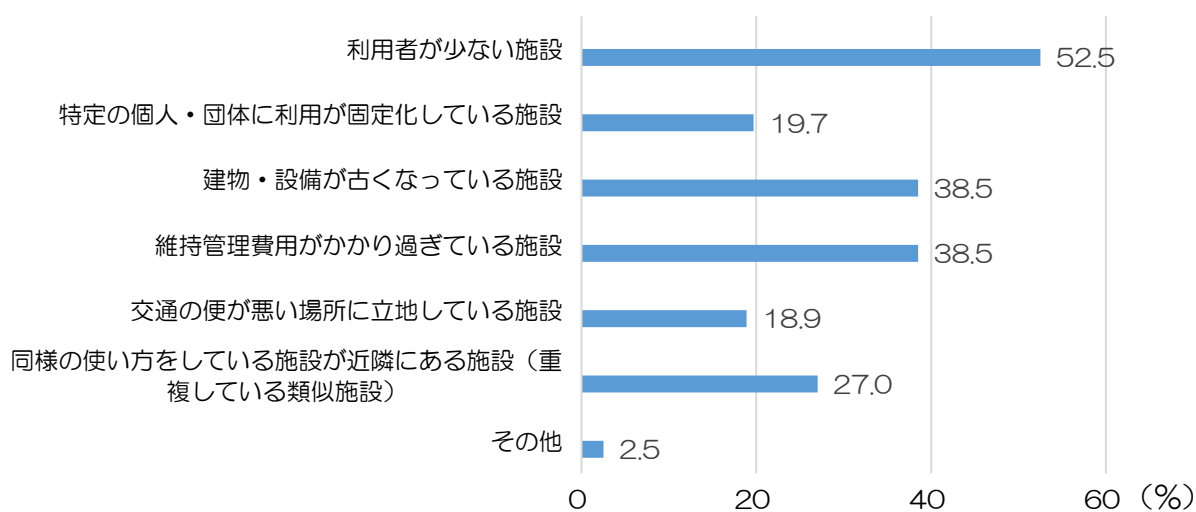
男女別にみると、男性の方が女性に比べてより積極的な賛成の傾向がみられます。

年代別にみると、どの年代でも「賛成」「どちらかといえば賛成」を合わせた賛成の意見が高い割合となっているなかで、「どちらかといえば反対」「反対」を合わせた反対の意見は50代以上の比較的高い年代で、年代が高くなるほど多くなっています。

地域別にみると、南部・東部ではより積極的な「賛成」の割合が高く、特に東部では反対意見がみられませんでした。

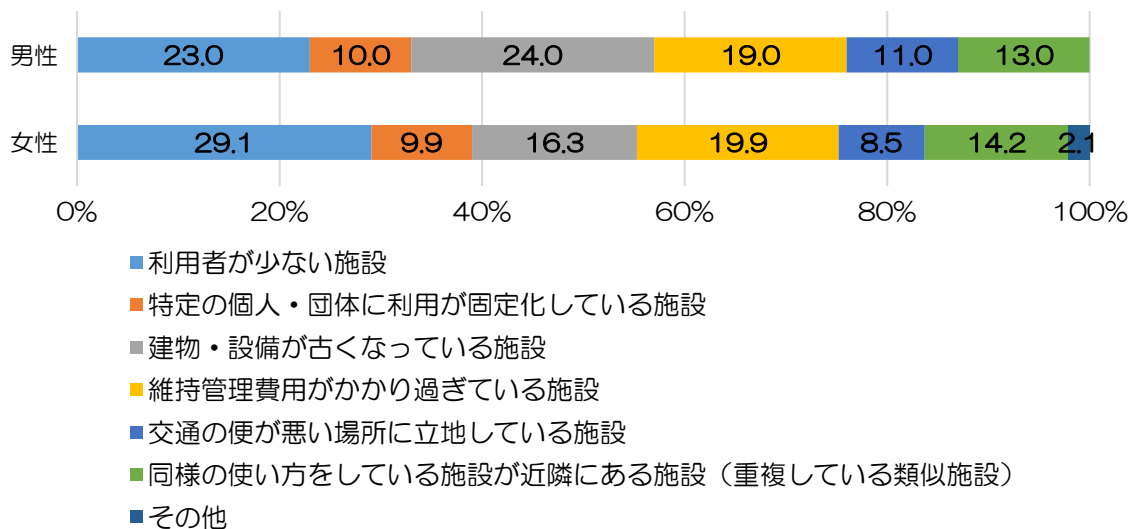
問 20 「問 19」で「賛成」「どちらかといえば賛成」と回答したかたに質問です。どのような施設の統廃合や複合化を行うとよいと思われませんか。あてはまるものを2つ選んでください。「その他」の場合は自由にお書きください。

選択肢	平成 29 年度 調査	
	回答者数	割合
1.利用者が少ない施設	64 人	52.5%
2.特定の個人・団体に利用が固定化している施設	24 人	19.7%
3.建物・設備が古くなっている施設	47 人	38.5%
4.維持管理費用がかかり過ぎている施設	47 人	38.5%
5.交通の便が悪い場所に立地している施設	23 人	18.9%
6.同様の使い方をしている施設が近隣にある施設（重複している類似施設）	33 人	27.0%
7.その他（※13 ページ参照）	3 人	2.5%

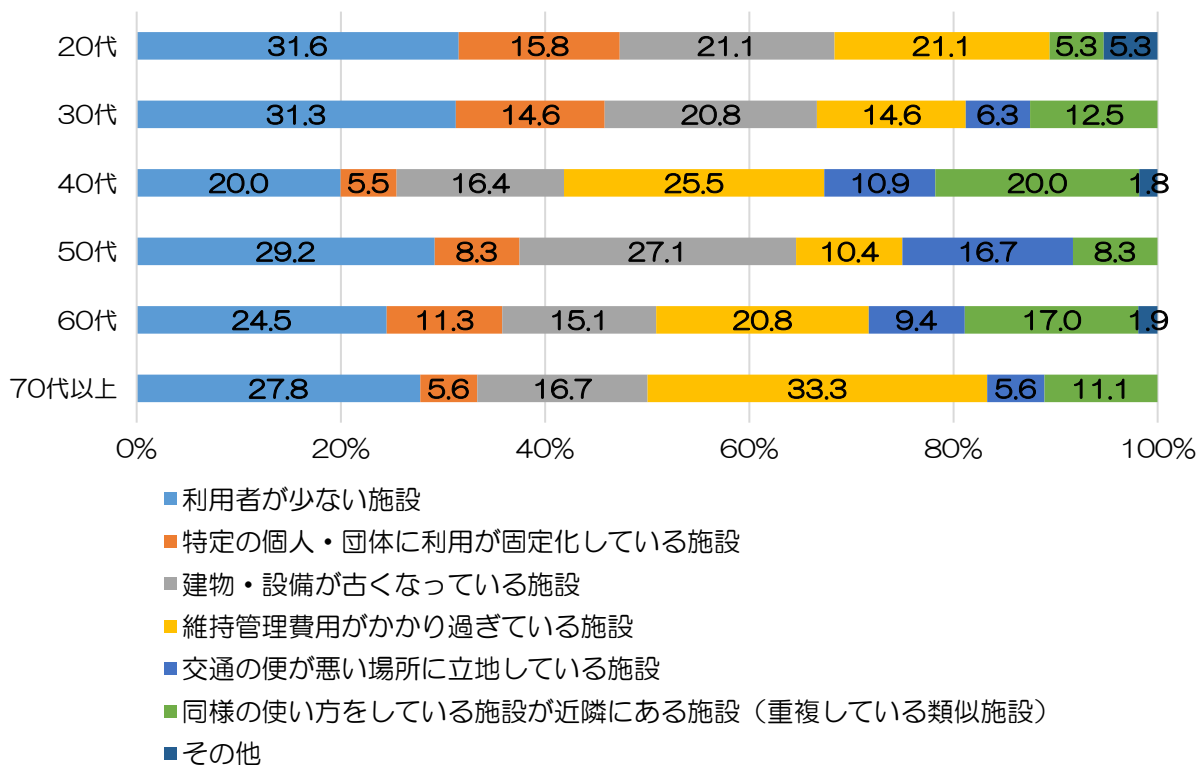


見直すべき施設としては、「利用施設が少ない施設」と回答されたかたの割合がもっとも高く、次いで、「建物・設備が古くなっている施設」「維持管理費用がかかり過ぎている施設」となっています。

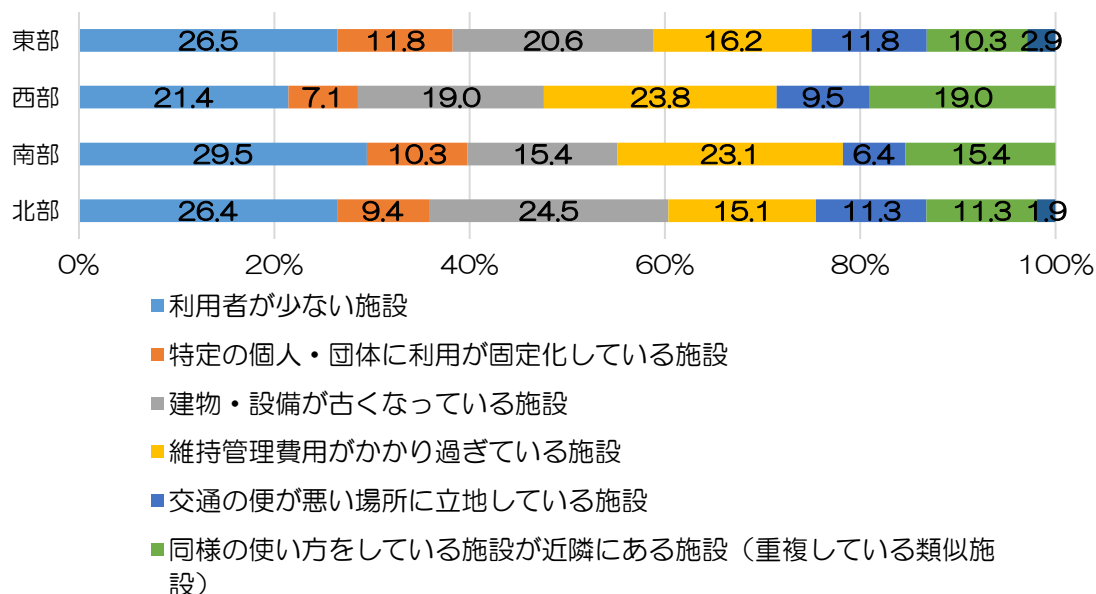
〈男女別割合〉



〈年代別割合〉



〈地域別割合〉



男女別にみると、男女とも「利用施設が少ない施設」と回答されたかたがもっとも高い割合となっていますが、2番目に高い割合となった回答は、男性は「建物・設備が古くなっている施設」であるのに対し、女性は「維持管理費用がかかり過ぎている施設」となっています。

年代別にみると、40代と70代以上については「維持管理費用がかかり過ぎている施設」と回答されたかたがもっとも高い割合となっており、50代は「建物・設備が古くなっている施設」と回答されたかたがもっとも高い割合となっています。

地域別にみると、東部・南部・北部が「利用施設が少ない施設」と回答されたかたの割合がもっとも高くなっているのに対し、西部では「維持管理費用がかかり過ぎている施設」と回答されたかたの割合がもっとも高くなっています。

※「その他」の回答

- 例え利用者が少なくとも利用する人には必要なところでは？
- 1～6は全て見直しの必要があるように思うので。利用の少ない施設・特定の個人・団体に利用が固定化している施設・交通の便が悪い場所に立地している施設は統廃合、複合化が一番しやすいのではないのでしょうか。それによって維持管理費用がかかり過ぎている施設へ還元できるように思います。6は検討しやすいのではないかと思います。
- 希望する施設

問 21 「問 19」で「どちらかといえば反対」「反対」と回答したかたに質問です。  
その理由をお書きください。

(30代)

- 複合や統合では一部しか見直されず、その部分だけの公共サービスが便利になる。
- 統廃合や複合化はある程度必要だとは思いますが、それによってさらに人口が減りそうな気がします。

(40代)

- 次の世代まで金を出してもらおうようになることは、しない方がいいと思います。

(60代)

- 取り残されていく人が少なからずいる。
- 老人は使いなれたところで、その施設も近くにある方が良いと思うが、利用施設が古く、使い勝手が悪い場合は統廃合も仕方ないと思う。

(70代以上)

- 今、市が考えている取り組みでは、合併町はますます疲弊していくばかりで、人口流出してしまう。

公共施設の見直しにあたっては、皆さまのさまざまなご意見を参考にしながら、望ましい姿を考えていきたいと思えます。

問 22 長崎市の公共施設マネジメントの取り組みについて、ご意見がございましたらお書きください。

(20代)

- その施設の近隣の住民に意見（アンケートなど）を聞いて本当に要る建物かどうかを検討する。
- 施設の利用者が特定の人たちだったりしないで、広い層の人たちに利用されている施設を残す。
- 県庁を駅の裏に建てていますが、あれにどれだけの税金がかかっているのかなと思わずにはられません。長崎市民、県民のどれだけの人があれを使うとお考えでしょうか。もっと多くの人々が利用するものに、お金をかけてみてはいかがでしょうか（水辺の森公園のように）と、市役所の移転でも思いそうです。

(30代)

- 老朽化の進んだ公共施設の中で、取り壊すものがあつた場合などは、民間企業に格安で売ったりする方法もあるかな、と感じた。
- 過疎地になればなるほど使用されていない施設も多く、複合化・多機能化が必要だと感じます。子ども・高齢者に優しいマネジメントを相互に考慮して取り組んでいただきたいと思います。
- 児童数減少に伴って、学校の空きスペースが増えていると思う。空きスペースの有効活用として、地域のかたへの貸出（高齢者の会合 etc）をしてみると、地域交流の場にもなると思う。ただし、多くのかたが出入りするということは、不特定多数の人を学校という場所へ入れることになり、安全面や不審者対策についても考えていく必要があると思う。
- 廃校になった校庭や運動場が草だらけになって汚く見える。定期的に草刈りするか、早く別の施設として生まれ変わってほしい。
- リーフレットが読みづらい。
- 長崎市は他の都市に対し平地の面積が少なく、大きな商業施設も点々とし町が狭いのにとままりがない感じ。どうせ作り直すとか新しい物を作るなら一カ所になるべく集められるように計画してほしい。それか、何十年後を見据えて長期で計画すべきでは。
- 小中学校の統廃合はよく考えてから行なってほしい。
- 公共施設が避難場所になっているが、確実に安全なのか不明。

(40代)

- 地域住民の理解が必要ですが、現状に合った対応は必要なので進めざるを得ない。統廃合の正当性を地域のかたに説明し、納得いただき出費を抑える努力を実施いただきたい。
- 老朽化した施設は近くの築浅物件をリノベーションして引っ越すなどして上手に活用してほしいと思います。
- 労働人口が減少していくことも考え 20 年後 30 年後・・・も生きている施設づくりが必要と思う。
- 体育館など民間もしている。また、小中高の体育館などの有効活用が必要。
- 公共施設の造りや利用方法などが、数十年も昔の考えで運営されているので、今のニーズに合った内容に変えないと、今後の利用者は減ると思います。
- 古い建物は確かに維持費がかかりますが、古いところの良さを引き出し、歴史を感じさせる建物を増やしてはどうか。長崎らしくて良いのでは。統廃合には賛成ですが、人によっては「近く」が「遠く」になるわけで。それでも気軽に利用できるには、やはり交通機関の充実ではないか。
- 長崎市の公共施設マネジメントの取り組みについて、もっと市民への広報、周知



を図る必要があると思います。長崎市の担当者が把握していない施設やアイデアを広く募ったほうがいいと思います。私は今回のアンケートで初めて知りました。

- リーフレットを拝見して、必要なことだと思いました。建て替えやリノベーションなどを上手くしていくことで、市民にとっても利便性の高い公共施設になると思いました。災害も起こりうることを考えれば、安全性も高められて良いと思います。費用面などデメリット面も併せてリーフレットに載せてもらえると、より考えやすいかと思います。
- 公共施設を複合化・多機能化し、地域の住民が利用・活用するのはいいことであり、積極的に取り組んでほしい。
- よく理解できていないので意見することはできません。

(50代)

- 役所の建て替え、駅前の施設は一緒にはできないのでしょうか？建設費用等考えてみても、経費削減にもなって良いのではないのでしょうか。そういうことも、もう一度見直していただけないのでしょうか。市営住宅の建て替えも一部改修とかで済ませることはできないのでしょうか？
- 公共施設は、利用する人・しない人がはっきり分かれている。習い事などで利用するふれあいセンターなどは、もっとたくさんの人に知ってもらって、常に稼働している状況になればいいなと思います。
- 長崎市内は駐車場が少ないため、もっと広く造った方がいいと思う。これからの市内観光客のために。
- 財源の確保は必要であるが、利用者が少ない赤字だから・・・との理由での廃止には反対。利用者の意見を聞きながら、税金を投入しても必要な施設は維持してもらいたい。
- 空き家は家を取り壊すと固定資産税が6倍になるため放置され、その苦情処理にも市職員の貴重な労働力が使われている。家を取り壊しても、駐車場のようにして、放置しても苦情が出ないように処理することで、固定資産税が低いままで維持されるようにすれば、土地の整備も進み市職員が力を注ぐべきところに集中できるのではないかと思う。
- 以前から思っていました、市立の児童センター(学童)はいらないと思います。近くにある人は利用できて、ない人は有料の民間を使うしかない。不公平だと思います。この声はあちこちで聞きます。学校の空き教室を利用して、運営は民間に任せていいのではないのでしょうか。
- 複合化した後の施設の使い方をよく考えて(例えば、避難場所(人も動物も)を作る等)新しく作ってほしい。本当に必要なことに税金を使ってほしい。
- 新しい建物をどんどん建てるのは賛成できません。人口が減っていくことも考えてほしいです。

- 交通の便が悪いところに住んでいる人にも、公共施設が使えるように（たぶん高齢者が多い）市内の地域にバランスよく配置してほしい。

#### （60代）

- 特にありません。良い取り組みだと思えます。
- 市公会堂がなくなり残念ではありますが、代わる施設（ホール）の建設計画も早急に検討をお願いしたい。
- 市で考えず、民間へ任せるべき。
- 長崎市が公共施設マネジメントに取り組んでいることを知らなかったことを申し訳なく思いますし、市民としてもっと多方面に目を向けなければと思いました。公共施設は市民のもので、簡単に統廃合は出来ないと思いますが、将来の子どもたちのことを思うと思切ったことが必要だと思えます。
- これからの人口減少・少子高齢化・財政状況等考え、何もしないのではなく、何らかの取り組みは必要だと思うので、ぜひ進めていただきたい。
- 観光都市であり続けるためにも、市民のためにも公共施設、案内所、トイレの充実を図ることは大切だと思います。乳幼児用のトイレも少な過ぎるとの声も聞かれます。
- 公共的な利用頻度の高いものを優先的に、補修管理を実施してほしい。
- 公共施設は長崎市広報、市民の憩いの場となるものだから大事にしていてもらいたい。
- 近くに公共施設があります。利用しています。利用者が少ないと、関係者が悩んでおられる時期もありました。なかなか面倒なこともあります。祭り参加、それに伴う役員・係の会議、祭りに参加したくない、なければ部屋を借りて活動したいのに、という声。冷暖房費についてのトラブル。関係者の感じの悪さ（利用者にもっと良い態度で接してください）。公共施設を利用したいと自然に思えるような施設があればと思います。絵本・本・雑誌・図書（ミニ）館をあちこちに作って子どもたちを集めるとか……。子どもの本離れを防ぐ……。

#### （70代以上）

- 市の中心ばかり見るのではなく、合併町の人口流出のために何をすればいいか、もっと考えてほしい。
- このことをもっと周知させてください。

今回お寄せいただいた多くのご意見は、今後の公共施設マネジメントの取り組みの参考とさせていただきます。